

# これが現場社員の声だ！

ボーナスは住宅ローンを持つ私にとって、安定的に入らないと困ります。

私は60歳まで家族と社宅にいるつもりでした。入社の際面接時に「転勤がつきもの会社ですが大丈夫ですか？どこにいても寮も社宅も完備しています」と言われ、安心して働けると思ったことを記憶しています。

結婚して子供が生まれ、家族と一緒に社宅で生活していました。どこに転勤しても家族と一緒に異動するために家を買うことなど考えず、それなりの生活をしてきました。退職後に妻と二人で住む場所を語り、将来の夢をみながら生活してきました。

そんな矢先、住環境制度が変わり「平成34年4月1日に社宅を出なさい」と通知がきました。当然、家を建てる考えはなかったので貯蓄もしていませんでした。人生設計が崩され、お先真っ暗で働くモチベーションすらなくなり、会社に裏切られた気持ちでいっぱいです。

仕方なく多額の住宅ローンを組み、家を買いました。年間約6ヶ月のボーナスが安定的に支給されてきたことから、ボーナスでの支払いを中心に返済を組みました。しかし、夏に大幅に下げられ、年末手当もあてにならないのではと不安ばかりが募り、子供たちの習い事もやめさせることになってしまいました。

住環境制度の変更は多くの社員の生活スタイルを変えました。これまで儲かってきた会社なのに社員の現実を直視せず、ネガティブなことしか言わない会社にうんざりです。家を買って、ジョブローテーションで家族と引き裂かれ、仕事や責任ばかりが社員に押し付けられ、唯一の魅力であるボーナスまで削られたら夢や希望どころか失望しか残りません。

転職が話題にあがる職場に安全輸送はできるのでしょうか？一獲千金を求めてギャンブルに走る職場にお客さまサービスはできるのでしょうか？いま自分のことだけに必死になり、思いやりや助け合いが消えた会社になってしまったと感じます。

コロナの影響もあって人との繋がりも希薄になっていることで悩みを抱えたまま苦しんでいる社員も大勢います。

社員の明るい生活が企業の活力へと繋がり、世の中をリードする会社であることを社員一人ひとりが誇り思うJR東日本にするためにも、いま、年末手当がその鍵を握っています！

共に頑張りましょう！